

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ジャルガルサイハン ジャルガルマー

氏名のローマ字表記：Jargalsaikhan Jargalmaa

所属：京都大学大学院 教育学研究科 博士後期課程

専門分野：教育学

発表のタイトル：大学の管理運営体制

発表要旨（600字～800字程度）：

モンゴルは1924年に、一党独裁の中央集権的政治・経済運営によって進める、社会主義国となったが、1989年12月、民主化運動が起こり「刷新の実施」、「より多くの人々の平等な参加」「自由に意見交換」などを求めて闘ってきた。そして遂には1992年1月、新憲法を公布して社会主義を破棄し、民主主義国になったのである。憲法の第2章「人権と自由」の16条9の規定によって全ての人々に直接的または間接的に、統治に参加する権限が与えられた。このようにモンゴルにおいて、民主主義化というときには何かの決定に対してより多くの人々が平等に関わるということが非常に重視されている。

それを受けて教育の分野で言えば、1995年の教育法、高等教育法の規定によって、新しい体制における教育制度が定められた。大学の管理運営体制として、最高意思決定機関である理事会や学術評議会や教務評議会などが導入され、学長などの役割が明確化されて、それぞれが意思決定に関与する体制が作られた。学術評議会や教務評議会が教員によって構成されることから、そこには学問の自由などが反映されていると考えられる。しかし、学長は文部科学省から任命され、理事会においても、多様なアクターの代表者（設立者、学生、教員、親、卒業生）から構成されるとともに、51%～60%を設立者の代表者（国立大学の場合は、政府の関係者）が占めると決定された。なぜ、大学の意思決定に関して、設立者の志向がうまく反映されるような仕組みが取られたのか。

本稿では、このような問題意識のもとで、モンゴルにおける民主主義や大学に関する文献調査を概観し、2017年9月と2018年3月に大学関係者に対して行ったインタビュー調査の結果を分析し、1990年代の前半のモンゴルにおける民主主義観と大学管理運営体制の間でなぜギャップが生じたのかについて考え、モンゴルにおける大学観と関わらせて明らかにしたい。